

第37回軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議 会議録

1. 開催日時 令和6年2月15日（木） 19：00～20：20
2. 開催場所 中軽井沢図書館 多目的室
3. 出席者 委員：石山武委員、稲葉俊郎委員、金山のぞみ委員、鹿ノ戸彩委員、
小出恵委員、袖山尚委員、福原未来委員、三島勇委員
事務局
4. 議題
 - (1) 中間支援組織について
 - (2) 提言書の作成について
 - (3) その他
5. 傍聴人数 0名（定員10名）

6. 議事内容

【会長】

では定刻となりましたので、ただいまより、第37回軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議を始めさせていただきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

本日もご多用の中、皆様お集まりいただきまして誠にありがとうございます。私達の任期も残すところ約1ヶ月半となりました。前回の会議で皆様から提言書への忌憚なきご意見もたくさんいただきまして、誠にありがとうございます。本日も引き続き、そちらの提言書の完成に向けて皆様からのご意見をいただき、進めていくとともに、中間支援組織についてもまた事務局からご報告がありますので、どうぞ皆様、本日もよろしくお願ひいたします。

○議題（1）「中間支援組織について」

【会長】

それでは早速ではございますが、次第に沿ってさせて進めさせていただきたいと思えます。まず初めに中間支援組織について事務局よりお願ひいたします。

【事務局】

はい、よろしくお願いいたします。

資料1の方をご覧ください。中間支援組織についてということで、現段階で町の方で検討している中間支援組織の資料になります。こちらで決定ということではもちろんございませんので、一度説明をさせていただいた上で、皆様のご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

まず中間支援組織を立ち上げるにあたりまして、軽井沢22世紀風土フォーラムの成果と課題ということで、風土フォーラムではシンポジウム開催、未来宣言、セミナーの開催、芸術祭の開催等、住民主体のまちづくりを体現してきました。しかし多くの住民の方々に関わってもらうことができなかつたと考え、今後はさらに多くの住民の方々が関わり、まちづくりを推進していけるよう、風土フォーラムに代わる新たな組織を作っていきたいということで、どのような組織にするべきか、まちづくりとは何か、立ち上げの段階、まず立ち上げの段階から住民の皆さんに関わっていただいて、考えた上で新たな組織を作っていきたいというふうに考えております。

そのために、外部から講師を招聘し、勉強会、ワークショップ、意見交換会を開催させていただき、軽井沢の課題や軽井沢におけるまちづくりについてとは何かということ組織立ち上げの前に、考えていきたいと思っております。勉強会等を経て、まちづくりのテーマであったり、組織の作り方、あり方等を決定していければと思っております。勉強会等を経て、決定したテーマをもとに組織を発足させていきたいと思っております。

下の図になりますが、まず勉強会等の中でまちづくりとは何か、課題の抽出、テーマの決定ということをしていくのですが、その中にはもちろん幅広い住民の方々に関わっていただいて、住民、団体であったり、企業であったりとか、金融機関、教育機関、もちろん町も一緒に参加させていただいて、共に考えていきたいと思っております。この周知の方法についても、今後検討していかなければいけないんですけども、皆さん積極的な方は、そういったアンテナが立っているかと思うので積極的に参加していただけるんですけども、どんな方でもこの勉強会であったり、ワークショップっていうのが開催されているということも、知っていただけるように、そういう周知の仕方っていうのも考えていかなければいけないかなと思っております。

そちらを経て中間支援組織、名称等は今後決まっていくと思うんですけども、発足させていただきます。こちらはもちろん町の方から資金的な負担金であったり支援であったりとか事務局としての機能も町がさせていただきたいと思っております。発足

したところで中間支援ということで、いろんなまちづくり団体であったりとかそういったところに支援をしていくと考えております。

来年度、令和6年度ですね、約1年かけて土台を皆さんと共に作っていきまして、メンバーはもちろん固定ということではなくて、実情に応じて増やすことももちろん想定されます。組織を発足した上で、どういった支援をしていくのかとか、活動内容、具体的な運営方針等を検討して決定していくように考えております。

右側、期待される効果として、こちらは町長のまちづくりビジョンをもとに軽井沢愛を育み軽井沢力を磨くと、軽井沢の魅力である多様性が高まるまちへと誰もが住みやすく定着する町、ワクワクした人が集まり、新しい価値を生み出すワクワク軽井沢の具現化と書いてありますが、その下は町長のまちづくりビジョンの表を引用したものにになります。

スケジュール案としましては、令和6年度になったところで4月から10月の約半年ぐらいで勉強会等を1回だけではなく、数回開催させていただきたいと思っております。組織発足を令和6年の年末頃にさせていただいて、本格的な活動っていうのは令和7年1月ごろから開始していければと考えております。以上であります。

【事務局】

あとちょっと補足でいいですか。

中間支援組織なんですけど、昨年ですね、こういった形でやっていこうということで、町の方で考え始めまして、まずこういう形がいいだろうというのを考えてはいたんですが、それでちょっと主要な皆さんとか、関わっていただきたい方々に声をかけて、意見を聞いたりしました。その中には、ちょっと【会長】はちょっとご都合悪かったりしたんですが、【C委員】にもお話をさせていただきたいということで、そのときには観光協会であったり商工会、あと金融機関等もあった方がいいかなということで八十二銀行さんとかそういった方々にご意見を聞いたりして、その方々が入った形でスタートしたいなというのが、その町の考えではありました。ただその皆様からもそうですし、他の方からもそうやって決められているけど、実際何をやっていくのかわからないとかそういうところから、まず何をやるかから考え、みんなで考えていって中間支援組織を作った方がいいんじゃないかというようなご意見もあまして、それはやっぱりそうか、そうなのかなということで、今事務局が説明したような、こういう形におさまっているという形になっております。

私達もいろいろ悩みながら、例えば東京都の千代田区なんかでも、そういうまちづくりの団体を作っていて、そういうところを視察したり、いろいろ考えていたんですが、なかなか難しいなというところで、来年度ですね、すぐ4月から始めていこうとは当初から思っただけだったので、来年少しいろいろ皆さんと話をしながらどういう組織にするかというところから、やっぱり考えていくことが大事かなというふうに考えております。すみません、補足です。

何かご意見ある方いらっしゃいましたらお願いいたします。

【A委員】

ちょっと、いいですか。

今更なんですけども、多分初めに中間支援組織っていうものの構想と説明があったかと思うんですけども、まず中間支援組織っていういわゆる名称ですね、中間ってのは、例えば図のですね、左側にありますけれども一番左下の図ですね、この例えば中間支援っていうのは何を支援するんですか、っていうような、中間っていう位置づけ、それが全体としてどういうものなのかなっていうのが、あんまり私理解できてないんですけども、その辺ご説明いただければと思います。

【事務局】

その辺が何を支援するのかわからないというのが、やっぱりこの問題になっておりました。なので、そこを考えていくのも1つというところで、簡単に言えばまちづくりを支援していくんですけど、そのまちづくりは何なのかっていうのを考えていきたいという組織で今のところ考えております。

【A委員】

なんか中間支援っていうと、具体的なイメージ、行政とか、行政じゃなくてもいいんですけども、そういうまちづくりの住民の支援、住民の声をまとめて、具体的にやっぱ組織として動くとか、そういうことをイメージする。今はまず勉強会やりましょうとか、そういうレベルですかね。

【事務局】

スタートはそういうことで、多分こういうテーマがいいんじゃないか、とかそういうのを探っていく中では、出てくるかなと思ってまして、その1つとすれば今まちづくり活動の中での「みなまち」と言われてる補助金の制度がありますが、そういったことで活動してらっしゃる方への支援とかそういうこともあるでしょうし、何を必要

としている方々がいるのかとか、そういったところからですね、探っていければいいのかなと。

【A委員】

まちづくりとしての全体像がですね、見えた方が参加する方も動きやすいとか議論しやすい。それはもちろん途中で変わっていいんですよ、もちろん。ただやっぱり、全体像が見えた方が何か議論とかですね、何かしやすいのかなっていうのは、私の意見です。

【事務局】

全体像とすれば、町長もまちづくりビジョンというビジョンを持っていますので、そこに向かってってことにはなるんでしょうけど、そのうちのどこになるのかとかっていうのを、ちょっと私達が当初考えていた組織体を作っていこうということで、下話で相談をさせていただいた中でいただいたご意見とすれば、例えば環境とかそういうテーマがないと、関係する皆さんも動きづらいついとか、そういう話もありましたので、そういうところも含めて、どういうテーマでやっていくかとか、そういったことを考えていけるような勉強会をしながらと思っています。

【事務局】

テーマによっては参加する方、参加しない方っていうかの可能性もあると思うので、そのテーマですつこの先、ずつとやっていくっていうことでもないとはいもちろん思いますので、何か活動していく中で、このテーマで今やってみましょう、テーマを変えましょうという可能性ももちろんありますので、そういったところでいろんな幅広い方々に関わっていただければなという思いはあります。

【A委員】

多分会社の仕事とかですね、何かいろんなことをやって、通常はロードマップ作ったりとか、そういうことではないと、まちづくりですからわかるんですけど。それにしても何かこう、先に全体像みたいのがあって、どういうふうにアプローチしていくとか、そういうのは少しあった方がいいのかなっていう気はしてます。以上です。

【副会長】

すみません、いくつか聞きたいことがあるんですけど。ちょっと1つ1つすみません。この一番下、左下あたり、メンバーは固定じゃなくて、実情に応じて増やすことってあるんですけど、これは任期といった形じゃなくて、一定のメンバーがいたうえで、その時々に合わせて増やしたり。

【事務局】

そういうこともあるかなという想定ですね。会則とかそういうものを作ったりみたいなことにもなってくるのかなと思いますが、例えばこういうテーマであれば、こことここが繋がるよね、とかそういうような感じで、そのときにはここは出てこないとか、いろいろそういう想定もあるというふうに思っていますので、メンバーもそのときによっても変わることもあるでしょうし。

【副会長】

とういことは、任期がないってということですかね。基本そのまま継続される。

【事務局】

そこも決めちゃうのもどうかとも思いますので、任期があるかないかっていうのを含めてですね、これから考えてもいいのかなと思っています。任期みたいな形にするのか、例えば、そこにずっと入っていて、このときにはここで出てくるけど、こっちには出てこないけど、いてはいけないわけでは当然ないので、例えば、わからないですけどやめたくなれば、やめるってことも可能かもしれませんし。

【副会長】

その時々で募集される。

【事務局】

そういうことも1つかなと。ただ決めないってということではないし、決めるってことではないのかなっていう、そういうイメージですかね。

【副会長】

結局1期、2期、3期、4期って、なかなか継続、その時々途切れちゃうようなことが起きないように。

【事務局】

何期とかでやっていくとですね。

【副会長】

途切れないような仕組みをしていただければいいのかなというふうに思います。

【事務局】

何期みたいな、そういうイメージではないかなと思っています。

【副会長】

はい、承知しました。

あと、すみません。一番上に簡単に22世紀風土フォーラムの総括をされていて、ここに「多くの住民の方に関わってもらうことができなかった。課題としてさらに多くの住民の方々が関わって、まちづくりを推進していけるように。」ってあるんですけど、これが課題にあがっているんですけど、下に繋がっていないと考えていて、例えばその真下もそうですけど、期待される効果のどんな状態っていうところにも、課題としてあげたからには、住民主体だとか、協働によるまちづくり、というような状態があってもいいのかなと感じました。

私の意見ですけど、いつになっても住民自ら主体性を持ってまちづくりに関わることっていうのは、必要性っていうのは、変わらないと思っているので、これはこの22世紀風土フォーラムでできなかったと背景として書かれているからには、中間支援組織として自治体行政への住民参加を促すことも1つ役割として考えればいいのかかと。政策を形成する過程でそこに住民が関わっていけるような、住民と行政の協働による行政運営の実現への働きかけも中間支援組織として担っていただきたいなど。そもそも町の方針が変わったっていうのならばないんですけど、そうなるちょっとこの書き方がおかしいかなっていう風に感じます。

あとすみません。この多くの住民に関わってもらうことができなかったっていうところも、これ私も肌感覚として、この住民参加ってのは、そもそも行政の負担の転嫁って思われてるところも、思われている現状があって、ちょっと言いにくいんですけど、この軽井沢の住民自らの働きっていうのが、町に影響を及ぼしているっていう、感じている程度、町に影響力を与えてるっていう割合が低いっていうのを私も感じています。町政に対する関心というのも低いし、住民自治っていうのもこれ青年会議所をやっているときに他の地域とか見るとときに軽井沢って芳しくない状況で、仮に中間支援組織が用意されたとしても、今後さらに多くの住民の方々に関わるっていうところにあまり意味をもたないんじゃないかなということ、町に、より明確な協働推進や住民協働とのような部署があればいいとも考えるし、そのためにも行政と地域住民が交流、意見交換など定期的に行うこと、それがこの場ということなんでしょうけど、住民からの意見を取り入れたという形を作り出すためだけの形式的な組織とならないように。要するにまちづくりに様々な形で関わる人材の掘り起こしだとか、住民参加のまちづくりだとか、住民自治の拡充も含めて、中間支援組織として担っていただけたらと思います。以上です。

【事務局】

すみません、いろいろご意見ありがとうございます。

ちょっと成果と課題とかこの辺の書きぶりを、ちょっと悩んでこういう書き方しちゃっていいのかなとかっていうのは私達もありまして、ただちょっと私達関わりが少し浅い部分もありましたので、その前任者であるとか、そういった方々にも職員の中でですね、ちょっと聞いていく中で、このぐらいの温度感でちょっと書かせていただいているという現状があります。

あとは、その他今【副会長】からいただいた意見は、これからやっていく上での参考とさせていただきたいと思います。

【B委員】

私もいいですか。

僕も【副会長】と同じように、今回22世紀風土フォーラムにあまり住民が関わっていただけなかったっていう点で、それを解消するためには中間支援組織がいいっていうこの理屈が全然わかんないんですよ。中間支援組織であれば、これまでの住民があまり関わってこなかったものが解消できるのか、という理屈づけがさっぱりわからない。それもありますし、だからといってやらなくていいってことじゃないんですけど、ワークショップを開いて、住民の方の意見を聞いたり、住民の自治ってどうかなっていうのを感じてもらおうようにすると思うんですけど、あまりにも茫漠としていて、本当に町が何をやりたいのかさっぱりわからない。中間支援組織って何ですかかって聞いてきちんと答えられる人が誰もいないと思うんです。そういう意味も含めて論理的に筋が通ってない。前置きの部分からしても。これで住民側が納得できるのかなと思って。僕は住民ですけど、納得できないと思います。だから、話し合っていけば生まれるのかなっていう疑問も非常に強いです。前も言ったつもりですけど、中間支援組織っていうのはじゃあ何なのか、町と住民の間に入っている組織になるのか、それとも町がやれないことをやる組織なのか、それも全然僕もわからなくて、雲をつかむような感じがしてます。今回のこれを聞いてもさっぱりわからない。申し訳ないけど。文章的には成り立ってるんですけど中身は全く論理的ではないし、これは住民の方に見せたらちょっと嫌だなっていう気がしますけど、申し訳ありません、強い気持ちを言ってしまったんですけども。前から中間支援組織って何をイメージしてるんだろう、前からわからなくて、今回はもうちょっと具体的になるのかなと思ったら、また更に逆にわからなくなってしまう。そこら辺、もうちょっと詰めた方がいい

いのかなって感じがします。これはもう個人的な意見で申し訳ないですけど、そう
思います。以上です。

【事務局】

ありがとうございます。私達が考えることとすれば、今この現状のこの組織という
のは町長の諮問機関という形になっています。町長から、命を受けて。

【B委員】

風土フォーラムって、諮問を受けてないでしょ。

【事務局】

そういう建付けなんです。条例に規定されているということは、そういう建付けに
なってます。

【B委員】

諮問ってことは、町長からこの課題をどうしますかって受けて、それを諮問するわ
けですよ。

【事務局】

そうですね。

【B委員】

でもそういう風に聞いてない。意見として承るだけであつたというお話だった。

【事務局】

本来そういう建付けのスタートになっていると私は思っています。それで条例に書
かれているのもそういうことで、報酬の条例にも規定されていて、皆さんに報酬を支
払うっていうのが現状です。町長の諮問機関っていうことは、少し自由度が低いんじ
ゃないかということが、今の町長の考え方で、前回条例を改正する案を見ていただい
てると思いますが、22世紀風土フォーラムというのを削って、そこには何も入れな
い、新しく入れないで、それに代わるものを、町長に諮問される機関じゃなくて、自
由にいろいろ発想できるもの、メンバーも誰が入るかもわからない、そういうもの
を作っていく自由さを新しく考えると、そういう建付けで考えてるんですが、その中
で、ただ新しく考えていくんですってということだけでは駄目なんで、私達とすれば、
こういう案でいきたいというものを持っていたんですが、それありきでは、やっぱり
いけないという意見の方が、聞いている中で多かったもので、一旦それをやめて、そ
こから考えていくということで、説明した内容になってまして、いろんな方に聞いてみ

た中ではやっぱりその意見に同意していただける方が圧倒的に多かったので、それはそっちの方向に間違いはないのかな、と今のところは思っています。

【B委員】

先ほど【副会長】もおっしゃった通り、先進的な市とか町、地方自治体というのは、市民協働部とか、課とかあって、その部署がハブになっているような形でやっている。僕、茅ヶ崎に仕事で取材に行ってきましたけど、そういうのをやっているんですよ。そういうところがやっている、そういうところをまず視察なさって、町でこう作って。

【事務局】

当然そういうことも含めて視察に行ってみてくるってこともいいでしょうし、そういう時間を使って、しっかり考えていきたいという感じです。ただ勉強会やって、こうしましょうっていうのは、それはもう視察も含めてって感じで。

【B委員】

まず市側の体制ちゃんとしてないと、中間支援組織といたって、これをバックアップするところはどこになるのか。

【事務局】

まちづくり推進室になります。

【B委員】

それが推進室になるんですか。

【C委員】

いいですか。

こないだ具体的になって、どうしてこうなっちゃったかなって、ちょっとがっかりなのが、まず最初にあるんですけど。今ここで委員として発言というよりは、1回住民として、何か勉強会とか講師を呼んでっていつまでやるんだろうっていう気がしちゃいます。すごくいい方呼んでくださって、勉強会のセミナーを開いてるなっていうのは軽井沢町に来てからの印象なんですね。その側面で、もう一方ですごくプレーヤーもいらっしゃるし、知見のある方はもう既に町にたくさんいらっしゃるっていうのも私の中の実感にあって、この間、コンソーシアムって形はどうかって、私が提案させていただいたのも那須の事例があって、プレーヤーがいてこういった形でコンソーシアムで町と行政と民間とプロジェクトを作ってますよっていう例として、とても那須も観光地として、伸び悩んでいるところもありましたし、非常に環境が似てるの

で、こういった事例があるとどうですかって話をして、呼んでいただいたと思うんですけど、観光協会長も、商工会長も、具体的なもっとプロジェクトがあれば、自分たちも何すればいいかわかるよねっておっしゃったと私は思っていたので、だったらもう、この風土フォーラムに出てきたプロジェクトの中で今までプロジェクトは4期全部でありますから、どのテーマも良かったと思うんですよ。なので、そこから具体的に走り出すのを、観光協会さん、商工会さん、銀行さん、お願いしますってやっていくことによって、住民、私も一住民として、町がこういうことやっていくから、こういう参加の仕方は自分ができるかなとかって言うことも1つの事例を早く作って、もう1個違う事例もできるよねっていうのをどんどん町が支援していくのだろうと、私はすごくワクワクしていたんですね。それがまたいつもの、いつものっていうとあれですけど、またこの軽井沢町らしいんですよ、これが実は。軽井沢町さん随分こういうことやってらっしゃると思うんです。ようやく改革に向かったかなって思ったところで、戻っちゃったのが非常に残念ですっていうのが、まずこれを読んで、今の私の感想ですね。なので、あんまり提案というよりは、ちょっと感想になっちゃいますけど、非常に残念です。

【事務局】

そうですね、その場を経て町長にも相談等させていただく中では、今こういった流れになっておまして、それを受けていくつかの団体と話もさせていただいたんですが、やっぱりそこから先、多かったのが、決められてるってことがあまり良くない。自分たちも含めて考えていきたいっていう意見の方が多くて、それを町長も聞いてますので、それが今このペーパーに落ちているっていう感じですね。

【C委員】

決められてるのは、人ですか、物事ですか。

【事務局】

こういうコンソーシアムみたいなそういう共同体っていう考え方が、それは決まっているじゃないの、っていう感じに受け取られた面があってですね。

【C委員】

ご意見っていう方は、具体的に何がいいからもっとこうしたいっていうのではなくて。

【事務局】

そこまでの提案はなく、一緒に考えていけるんだっていうスタンスが。

【C委員】

その方も入ればいいじゃないですか、と思うんですけど。

【事務局】

入りたいってことだとは思いますがね。

【C委員】

入って、皆さんで考える場が、ここだから。もっと言ってしまうと、例えば私もこういうのに参加したい、今やってる芸術祭とかで、このチームに入りたいと思ったときに、まず勉強会ですって言われたら、何ていうか、ちょっと言葉きついで、馬鹿にしてるのかなって、ちょっと思っちゃうというか、もうだって、すごくいろんな分かってる方がいらっしやって、こういうことやりたいって言って、皆さんの力を貸してくださいって、他にやられてる方の活動もリスペクトしながら、その方と一緒に違う形になっていってもいいから、一緒にまちづくりやりましょうって思ってるのに、いらした方が自分の成功事例ですって言われて、私達はちょっと違うことを言われて混乱して終わるみたいなことを1年続けてたら、せっかく具体的に動き出すものも動き出さないのではないだろうか、ちょっとごめんなさい、きついですけど思っています。もうだいぶプレイヤーはいらっしやるから、むしろ「みなまち」で助成をもらってるプロジェクト、どんどん支援しましょうって交渉してもいいですよ。皆で知恵を絞って、って思いました。

【事務局】

すみません、ありがとうございます。

【会長】

その他、いかがですか

【副会長】

すみません、回答いただいたことにまたちょっと疑問に感じたことがあって。先ほど基本会議の諮問機関ですよ。まちづくり基本条例にそういうふううたっているところがあって。ただその諮問機関である基本会議がおしゃべり場だとか、っていうのを自ら主催していくっていうのはおかしいかなっていう風に、それを実情に基づいた形にしていったのが、この中間支援組織になったのかなと思ったんですが、それだと今回のまちづくり基本条例にうたっていないですよ。条例で縛られてないって言い方され、自由度を高めたっていうことされると思うんですけど、それはかえって後退

しているような印象を受けてます。もうちょっとそこも権限っていうのは与えてあげた方が、その組織はやりやすいんじゃないかな。

【事務局】

その権限のお話もあったと思うので、今の現状のこの組織は、町長がこうやってっ
ていうことを諮問する機関ということで、それを考えてるっていう建付けだったと思
ってます。始まりはですね。なので、だからこういうことを考えてねっていう具体的
なことっていうよりも、何か考えてねっていうのは、そういうスタンスだったのかな
ってところで、そこに対して、自由に使えるお金もここに与えて、自由に考えて
もらいたい、っていうそれは後退ではないと私達は思ってます。今現状、この組織
(風土フォーラム)に、このお金で何かやってということはできないので、そうじゃ
なくて、そうできるようにすることも、より自由度を高める1つなのかなと思っ
てます。その予算をこれで来年度取るつもりでいますし。

【副会長】

そうなる、課題の抽出も全て中間支援組織に委ねるっていうことになるん
ですね。

【事務局】

そうですね、中間支援組織に全てを託す、当然私達も含めてということですけど。

【副会長】

そこがもし、万が一マイナスの方向に向かっちゃいけないかなと。これからある程
度ですね、こちらのスキームみたいところで定められているかなと思うんですけ
ど、そういったところに見えてこない現状の課題の解決っていう部分が。自由に課題
抽出を委ねられるところに対策、ある程度のところで方向付けをされるっていうこと
ですよ。

【事務局】

そうですね、向かう方向は当然あると思いますので、そこに向かって考えていくと
いうことになる、マイナスに行くっていうことはないとは思ってます。

【副会長】

そうですね。指し示してあげた方がいいかなっていうのは。

【事務局】

当然それは、町長の言う、まちづくりビジョンもありますし、そういう方向性っていうのは、私達も理解しているつもりです。そこに向かっていく中で、どうやって、やっていくのかということを考えていたいという。

【副会長】

承知しました。

【会長】

他に無ければ、私から。

今の皆様のお話にも出ているように、元々この基本会議というのは町長の諮問組織として発足されて、それがだんだんと時間をかけていく中で、形が変わっていった、なんていうんですかね、元々私達基本会議は多くの住民の方々に関わってもらうことが主目的ではなかったと思うんです。なので、そこが課題であったというのであれば、この中間支援組織の発足の前に勉強会をやるのはちょっとどうなのかなと思ってます。そもそも勉強会を何のためにやるのかといたら、その目的は、地域の課題を解決するためだと思うんですけど、その課題がまだ見えていない中で、勉強会を開催するというのは、ちょっと順番が違うんじゃないかなと個人的に思います。その課題というのも、地域とか立場によってもそれぞれだと思いますし、地域によつての課題というのはエリアデザインの方で、今皆様も話し合っているかと思しますので、だったら、エリアデザインの方々も、まずは地域からもう少し場を広げていったりとかする方がいいのかなと思います。あと中間支援組織に何を求めているのか、ゴールをどこにするのか、というところをあらかじめ決めておかないと、それがフォーラムと同じように、結果が出てないんじゃないかとか、効果がないんじゃないかとか、また後々出てくるんじゃないかなと思います。

【事務局】

ちょっと勉強会という言葉は、皆様のご意見の通り、よくないのかもしれない。勉強するっていうことよりは、ちょっと違うことなのかなというのは、あるかもしれません。あとゴールですね、ゴールについてもちょっと考えさせていただきたいと思います。どういう表現をするのが良いのか、設けることがいいのか、設けないことがいいのか含めてですね、検討させていただきたいと思います。

【会長】

この検討自体は、まちづくり推進室の中で行っていくのですか。

【事務局】

そうですね、今考えるのは私達しかいないので。どうやって進めていくかっていうことは、私達の業務になります。

【D委員】

軽井沢町で「ざわざわ」の企画を【C委員】でやったときに町から支援があると助かるなと思ったのは、お金のサポートよりも場所のサポートでした。使っていない施設を一時的に使えるような仕組みや、この場所を使ってください、という方とのマッチングを間に立っていただけるとかなり助かると思います。皆さんがおっしゃっていたような、既に動いている実績のあるグループをサポートすることも大事かと思えます。あと、公的な企画のプレゼンテーションとコンペのようなものを行い、金銭や場所のサポートをしたいという方とのマッチングができるといいのではと思いました。

【事務局】

ありがとうございます。

場所なんかは公共的な部分は当然協力っていうか、使えるようにはできるでしょうし、そうじゃない公共的でないところも含めて使えたりするような、そういう繋がりが持てるようなものになればいいかなっていうのは思っております。今おっしゃるような、そういうこのときはここが繋がる、そういうようなことができるような組織になればいいのかなと思っております。

【C委員】

今、皆さんから出た意見にお答えすると、聞きながら思ってたんですけど、やっぱりこの行政、役場みたいなところだと、それこそ、いろんな人の意見をお聞きしましたって言わなきゃいけない立場だっていうのは当然ですけどありますよね。そういう方々発信でコンテンツを提示するって、非常に難しいんじゃないかなって思いました。だから中間支援組織ですぐやりますとか、勉強会やりますって、何言っても多分何？ってなるんだらうなっていうのが、今お聞きしててずっと思っていて、ちょうど【D委員】がおっしゃってくださったのがちょうどよかったと思ってたんですけど、聞きながら、場とマッチングっていうか、顔合わせのセッティングだけしていただければいいなってちょっと思ってたんです。まさにおっしゃった通りで。なので何を作るとか言わずに、例えば助成金出した、ちいき活動見本市の役場版みたいな。あれ社協さんがやってらっしゃいますけど、ああいう何かみなまち助成金で支援している方々のプレゼンテーションのある場所です、とかってあまり町の人出られないんで、あのイベントにしか行ってないけど、そうじゃなくて、こういう理念を持って活動してご

支援をいただいていますっていうのが、一同にいて、そうするとその方々も顔合わせられるし、私達もそこに行くだけで皆さん活動されてるあのキーパーソンに会えるみたいな、それをただ開いていますってやるぐらいの方が、もしかしたら役場にとって良く、そこでなんかこう、自発的に中間組織的なチーム作っちゃいました、みたいなのは生まれたら初めて町として何かとても良い組織ができたので、ちょっと町と一緒にやりますか、みたいなのが、順番が違うというのもおっしゃってくださったというのがヒントになって、もしかしたらそういうことなのかもしれないと。あまりにも決まってこれを出しすぎているかもしれませんねと思いました。

【事務局】

中間支援組織って言葉ありきみたいなのがあったのかなというのは否めないところがありまして、どうしても22世紀風土フォーラムを今年度で終了させます、そうするとどうなるの、ってなったときにやっぱり何かがないとっていうところが、やっぱり行政の考え方で出ちゃってるのかなと。

【C委員】

ちゃんとやんなきゃ、ちゃんと言わなきゃと思ってるけど。

【事務局】

そういうことをこういう形でっていうのが、ちょっと受け入れられない部分が皆さんにあったりして。

【C委員】

町の面白い活動してる人たち見本市ありますとか言っちゃって、来年度それぐらいでもいいかもしれないですね。そしたら出ましょう、わざわざもみなまちの助成取ってる方も出るし、みたいな。そうすると、もっと顔が繋がるかもしれない。

【D委員】

素晴らしいアイデアを持つ方々がプレゼンテーションして、企業の方も含めてアーディエンストして参加してもらい、その実現に向けてサポートしてもらおう。群馬では群馬イノベーションアワード（GIA）やグローバル始動人プレゼンアワードなど積極的に実施されていて参考になります。そうしたマッチングの場を提供してもらえただけで助かる方は多いと思います。

【事務局】

そこから始まって、その次にまた行くのであればそれはそれです、というようなものですよね。

【C委員】

来年はもう住民がやります。場だけ作りますという。

【事務局】

勉強会っていう表現をしたのも、もちろん軽井沢の皆さんで、もう既に精力的に活動されてる方も大勢いらっしゃるのはもちろん重々承知しているんですけども、小さい規模でとか個人的にまづくりをやってる方とか、あとは若い方、知識がない方っていうのも、もちろんいると思うので、そういった方々も巻き込むために、そういった勉強会であったりそういうものを開催して、その中で今まで参加していなかった方もそういうところにどんどん来てもらって輪を広げるじゃないですけど、いろんな方を巻き込めるようにという思いで、こういった形の書き方になってしまったところがあります。そういうものを開いた中で、今【C委員】言ったように、場だけ提供して、いろんな方が顔が繋がって、いう風になっていくのがやはり町としてもそれは一番いいことなのかなと思いますので、ちょっとこの書き方であったりとか場の作り方っていうのを少し考えていかなきゃいけないかなとは思っています。

【E委員】

書き方として、先に中間支援組織がきているじゃないですか。組織の前には、やっぱり「何をやるのか」っていうのがあって「組織を作る」っていうことだと思うんですけども、それが何か逆転してしまってるというか、今のお話だと多分中間支援事業っていうのがあって、そこから組織が作られていくっていうことだと思うんです。中間支援組織を作りますっていう絵が先に出てきてしまってるので、何か充て職的に（関係団体から）皆さんが集まるけれど、何を進めるのかわからない、みたいな、毎年人も変わっていくみたいな組織になるんじゃないのかっていうのが、何となく今までのイメージとして浮かんできてしまうので、であれば作ってもしょうがないんじゃないかと、いろんなご意見が出てきてるのかなと思います。中間支援事業というか、今の（話の中に挙げられたように）繋ぎ合わせることをやりますって言った方がわかりやすいのかなっていう風に思って聞いていました。

【D委員】

例えば、クラウドファンディングはインターネットにアクセスできる人しか参加できないので、クラウドファンディングのリアル実施版みたいなものがあると面白いですよね。

【副会長】

そこを運営してる会社が、調達金額に対して結構なパーセンテージで手数料取るんですよね。町でやれば、集めたお金をほぼそのまま。経費だけ差し引いて。

【D委員】

皆さんのいろんな思いを受け取って面白いものにしていただきたいなと思います。

【副会長】

あと先ほど【事務局】があげた、やっぱりその精力的な活動されてる方とは別に、またその裾野を広げていく、関わる人材が多ければ多いほど、そこをの視点ってのはあると思うんですけど、勉強会って結局、そこに興味ある人しか来ないんですよ。例えばだからまちづくりに携わる人材を生み出していくっていうときは、勉強会じゃなくて別のアプローチが考えられるのかなって思います。

【事務局】

そもそもそういったところに来る方っていうのが、もう既に知識があったりとか、逆に言うと、来ない方、関心がない方っていうのは知識がないっていう話もちょっと伺ったりしてまして、こういう書き方になりました。

【会長】

みなさん、大丈夫ですか。

こちらは一旦閉じさせていただいて、提言書の作成に移らせていただきます。

○議題（2）「提言書の作成について」

【会長】

ちょっとすみません、こちら皆様に事前にお配りできなかつたんですけども、第2案の方を作ってまいりましたので、少しお目を通していただければと思います。前回のものは、ちょっとふわっとしすぎていて、もう少し具体的な案にしてほしいというご意見を皆様からいただいたので、具体的なものかつおあしやべり場の方で皆様からいただいたご意見とかも盛り込んであるつもりですので、その点も踏まえて、お願い致します。赤字のところは前回から変えたところです。なので、提言書の下の方はもう全部丸々変えました。

（黙読）

【C委員】

すごい細かいんですけど、おしゃべり場をかぎかっこにした方がいいのではと思いました。

【会長】

ありがとうございます。

【A委員】

すみません、提言って、具体的にその4つを言ってるわけですね。

【会長】

そうですね。

【A委員】

対話の場と。

【会長】

はい、でもその他にもあればそれも。

【A委員】

それからビオトープ、それからあと植栽ガイドライン、それから、町独自の登録制度ということ具体的な点としてやってくださいって言ってるわけですね。一番下の例えばこの「住民が自然環境に配慮した事業者を自ら選択できる」っていうのはどんなもの。

【会長】

これは、確か前回、インセンティブを与えるような仕組みがあったらいいんじゃないかっていうお話があったんですけども、それは緑の景観賞とかがあるということで、であれば長野県がやっているSDGs推進登録企業制度みたいなものの自然環境版を町独自で行って、事業者さんに特に。

【A委員】

例えばイメージとして家を建てる時、なんか登録した業者さんでやろうとか、庭を作るとき、なんかそういう登録された業者を選ぶとか、ただ自然環境ってあるから、家を建てるのも庭を作るのもみんな自然環境ですよ、1つのまちづくりになりました、というイメージですかね。

【会長】

そうですね、例えばそれも町が行う環境に関するセミナーを受講したら、1ポイントみたいな。ちゃんと理解している企業をリストアップするっていう感じ。

【B委員】

いいですか。ちょっと細かいことで。1番で、3行目ですかね。「動物・自然・住民・事業者など」これ動物自然の代表って誰なんだろう、ちょっと同列に並べるのはおかしい気がしました。

【会長】

【D委員】が確か前回おっしゃっていた、いろいろな立場の、もちろん動物はお話できないので、そういった専門家の方、例えばピッキオさんとか、そういった代表者、各代表者を指しています。

【C委員】

いや、でも言ってもいいですよ。

【B委員】

もうちょっと表現変えた方が。

【A委員】

動物が専門の方とか、そういう意味ですかね。

【会長】

そういう意味です。

【B委員】

あと、2番のビオトープを作ることっていうのは、ビオトープって結局、保全しているのか、保全してないのか、わからない気がするの、「などを保全すること」という風にもうちょっとわかりやすくした方がいいんじゃないかなっていう気がしました。

あと3、4番目共通するのが植栽ガイドラインが2回も出てくるんですけど、そんなに強調する何か意味があるのかなと思いました。

【会長】

それは失礼いたしました。

【B委員】

あと4番目で、2行目から3行目にかけて、「環境基本計画や植栽ガイドラインを推奨する」って、基本計画は、これは守らなくちゃいけないんじゃないかなと思うんで、「基本的に基本計画を守り、植栽ガイドラインを推奨する事業者に対して町独自

の登録制度を設けること」って多分意味がわかるんですけども、ちょっとそこら辺が意味がわからないので、直した方がいいのかなと思いました。

あと、残念ながら私の意見が1つも入ってなくて。僕は厳しめに、ものすごく厳しめに見るので、ちょっと残念なんですけど、皆さん意見を集約して、こういうことになったということで、別に全然構いません。

【会長】

まだこれで決定というわけではないので、そういったことも含めて、皆様からもご意見をいただければと思います。ちょっと私に文才がないもので、そのあたりもぜひ含めて皆様にご協力いただければと思います。

【B委員】

もう少し何かすごい刺激的なことをやれば、全国ニュースになると思うんですよ。

【副会長】

多分批判もくるかもしれない。

【B委員】

いやもう本当軽井沢で、すごく世界で初めてみたいなのをやれば、世界のニュースにもなりますよね。

【副会長】

そうですね。だから、ちょっと先駆的なものが入っても。1つ入ってほしい。ただそれに必要性を探るだけのデータだとか、説得力を伴うものじゃないと、別添でもいいから載せていただいて。ありきたりのものって、当然どこでもやっていることは当然その妥当性っていうのはわかるんですけど。

【C委員】

じゃあ、やっぱり動物代表って書いて、来れなかったけどここに呼ぼうとしているスタンスは変わらず、彼らの意義を聞こうとしてますっていう、意思表示です。

私、ビオトープって確かにおっしゃった通り、そのビオトープって多分言葉でいろんな想像があるんだろうなって思ってまして、すごく小っちゃな家でやれる水槽みたいなのを考えちゃう人もいるみたいなんです。初めてこないだ話したときにビオトープ知らない方から検索したらこういうのなんだね、って。違うの、と思って、それでこの言葉ってちょっと気をつけなきゃいけないなって、つい1週間前に思ったばかりだったんです。なので、保全っていうと、また保全の仕方もうろい議論が出ちゃうんで、何か皆さんから出てきた循環みたいなことをしっかり考えた環境作りって

いう、具体的だけど、そこまで何か強くない、みんなで考えられる余白はあるけれども、循環ってということなんですよっていうのを言っておいた方がいいのかなって思います。何か勉強会ときも確か湿地は守ったけども、水の流れをちゃんと考えなくてストレートにしちゃったから、ビオトープが、生態系が崩れたって言ってましたよね。だから、やっぱりそのうねうねする水の流れによってたまるから、微生物とか昆虫が、っていう話から、循環をちゃんと考えるっていうと、そこまでみんな落とし込めることのきっかけにはなるのかなと思ひまして。保全って言っちゃうと、いいじゃないここに水流しているんだからって、なっちゃう可能性があるのかなというところで、その辺の言葉をちょっと作り込んだらいいかなと思ひました。

【会長】

これ作るにあたって、いろいろ迷走して、ビオトープって言ったのは、石塚先生がおっしゃっていた、あの辺り、もしかしたら私有地かもしれないなどか思って、そしたらここで勝手に言っちゃうのは、ちょっとどうなのかなと思ひたので、それを移設したりすることもできるのかなと思ひてビオトープにしました。

【C委員】

なるほど。

【会長】

ちょっと迷走してます。

【D委員】

そういう意味では、発地エリアだけが、具体名で出ていますね。

【会長】

そうですね、それは石塚先生がおっしゃっていたセミナーだったかな、ちょっとどっちでおっしゃっていたか忘れちゃったんですけど、発地エリアはいろんな生物も残っていて、湿地もあるしということですが。

【C委員】

むしろ発地しか守れなくなってきましたよね。

【会長】

でもその発地も最近新しいお家とかもバンバン増えているので。

【C委員】

発地だけこう言うと、発地の方が何て言うか。

【会長】

南側っておっしゃってましたっけ。

【B委員】

多様性がみられるエリアにでいいですよ。

【C委員】

エリアにっていうようにしておけば。

【会長】

細かいところは町長に伝われば。

【E委員】

町長だけではなくて、住民の人も読んで、なるほどこういうことを言ってるんだというの、読んでわかる方がいいと思うんです。ここでの質問が出ないぐらいのわかりやすさというのを担保した方がいいかなと思います。

続けていいですか。

この4項目ある中で、それぞれいろんな具体的なことが出てきたりするので、「こういうことが必要とされている、例えばこんなルール。」みたいな感じで、これです、具体的な例、みたいな感じで書くと、何となくイメージが湧いて、どういうことを言いたいのか伝わって、これまでに出てきた意見、攻めた意見も載せやすいのかなと感じました。

【会長】

こっちの1、2、3、4の方にももう少し意見を入れる。

【副会長】

水の流れだとか植栽ガイドラインの必要性っていうのも、最終的に【E委員】が言われた、結局、その語らう場だとか学ぶ機会ってとこに尽きるのかなという風に思うんですよね。自然の守り方、繋げ方っていうのも、結局その町の多くの住民に共有されること、あと町全体として取り込むことが全部そのまま解決に向かっていくんじゃないかなと思います。

【会長】

もうあまり時間もないので、チームを作ってやらせていただきたいです。

【副会長】

【B委員】 よろしくお願ひします。

【B委員】

僕の意見入れていいんですか。

【副会長】

もちろん、ご提案いただいたら意見書もそうですけど。

【B委員】

軽井沢に入ってくる外の車は税金とるとか。

【副会長】

いいですね。いやいいと思いますよ。

【B委員】

1面トップですね。

【副会長】

記者会見には隣にいらしてください。

【B委員】

でも、ぜひ1つでいいので、思い切ったことやって欲しいなあっていうね。せっかくこういう自然環境保全っていう、守るっていう、そういうのが象徴的に表れるようなものがあるとすごくいいなど。厳しめな意見を出して。

【副会長】

そうですね。

【会長】

ということでチームを作りたいと思いますけど、入っていただける方いらっしゃいますか。

【副会長】

【B委員】ぜひお願いします。文章の校正含めて。

【B委員】

【会長】作っていただいたものを僕に送ってもらって、また直したものでもいいんですけど。

【会長】

私が考えると、またどんどんふわっとしちゃいそうなので、とりあえずこれデータで送ります。

【B委員】

データで、はい。いつまでに作ればいいですか。

【副会長】

逆算していくと、いつ提言されて、町長に渡しますか。

【会長】

3月の後半で、町長のスケジュールを見ていただいて、3月の後半で町長にはお渡ししようと思っているので、とりあえず今月中くらいでまとめ上がればと思っています。

【副会長】

あと、すみません。それとは別に町の担当者の方をお願いなんですけど、これ提案して終わりじゃなくて、やっぱり提言した者の責任として、最後まで追っていきないう風になると思うので、提言がどうなったかっていうのは、まあすぐにできないのは重々承知しているんですけど、即時可能な事は、実現していただくことと、あと対応できないとしても、どう議論されたのかだとか、どう検証されたのか、途中経過などをお知らせいただければありがたいなと思います。

【事務局】

はい、わかりました。それはどういう形が一番いいですかね。すぐ手をつけられるものと、そうでないものとかも多分あるかもしれないですし、その辺をどういう形で皆さんに。

【副会長】

もし進展があれば。でも、一番ちょっと懸念に思っているのは、俎上にも提言した後、上がらないんじゃないかなってことと、政策に盛り込まれていかないと提言が活かされないまま放置されちゃうのかなと。

【A委員】

提言を出したらやっぱり提言を出した相手方の見解もあるということじゃないですか。回答っていうのかな。どうしますとか。

【副会長】

それをできないっていうだけじゃなくて、どういった理由でできないかだとか。進展があればそれはお知らせ頂いて。

【事務局】

こういった内容ですので、例えば提言をいただく段階で、環境課長とか入っていただけでもいいのかなとかちょっと思ったりはしたんですよ。どうですか。

【会長】

提言書の内容に意見をいただくのは違うかなと思っているので、これを出した後に環境課長とあと町長からの回答をいただければ。

【事務局】

それは出すんですけど、町長が受ける場にいた方が良いかなと。

【B委員】

それは良いんじゃないですか。

【事務局】

そういった話にもなるでしょうし、もうほぼ所管は環境課にはなるかなと、私達も当然含むんですけど、そういった形の方が話も伝わりやすいのかなと、ちょっと思ったりしましたが、一旦町長だけっていうことであればそれはそうしますが。

【B委員】

いていただいた方が良いですよ。実務はそちらの方でしょうし。

【事務局】

当然提言いただいたので、何かしらお返しはすることにもなると思いますし。

【会長】

その場プラス何か書面か何かでご回答いただければ。

【事務局】

そうですね。

【D委員】

22世紀風土フォーラムのホームページは残るのでしょうか。もしWebで残るのなら、そこに載せてもらえれば誰もが閲覧できるかなと思います。

【事務局】

風土フォーラムのホームページ自体は、この3月末でなくなってしまう。ただその風土フォーラムのホームページの内容を集めて、町のホームページの方に移動させるというイメージですね。

【副会長】

これまでの経緯だとかって残る。

【事務局】

そうです。単独ホームページから町のホームページになるっていう感じになる。それはしばらく町のホームページの中に残しておくという形で考えています。そこには当然これも入りますし。

【D委員】

この提言書は、今期のメンバーからの提言書という意味だと理解しています。

【副会長】

で、いつ提言はされるんですか。

【会長】

3月後半のところ、町長の空いてる日を見ていただきます。それが決まり次第、皆さんにお知らせしますので、是非ご都合のつく方、一緒に来ていただければと思います。一応今のところ、26日27日あたりですか。

【事務局】

25日から27日あたりで。

【副会長】

すみません、私把握してなくて。来月、次回の基本会議っていうのは、今日で終わりじゃないんですよね。

【会長】

なので、これで裏でいろいろ提言書をまとめたものを次回皆様にお諮りいただくということで最終になると思います。最終でいいんですよね。

【事務局】

そうですね、はい。

【会長】

それが3月の上旬。なので、これで次回の会議でほぼというか確定してしまうので、何か言い忘れたこととかありましたら、ぜひ事務局までメールや電話などいただければと思います。

【B委員】

あと、最終の会議は全員参加されるんですか。最近ちょっとあまり見えていない方がいらっしゃいますが。

【会長】

約2名ほどいますが、それはどうなのでしょう。来ていただけるならもちろん、来ていただきたいと思います。

【D委員】

オンラインとのハイブリッドなら参加しやすくなりそうですね。

【事務局】

可能ではあります。

【会長】

今まではオフィシャルにハイブリットとは言ってなかったですけど、最後なので、ハイブリッドってということも正式にお伝えしていただいて、来れる方はもちろん来ていただくのが大前提で、3月4日で時間は同じで。中央公民館が取れば、中央公民館。だめならちょっと考えます。

【E委員】

3月4日には、提言書はほぼ確定となるイメージですか。

【会長】

もう今月中には。

【E委員】

もう提出まで、【B委員】と【会長】にお任せしてしまう感じですか。それとも、作成したものを会議にまた出していただいて何か意見を言ったりするのでしょうか？

【B委員】

【会長】から皆さんにお話ししていただければ。

【会長】

事務局から皆さんに。なので、素案ができる前の段階で、是非ご意見をいただければと思います。もちろん素案ができてからも何かご意見があればいただきたいですけども。

【副会長】

だから最終の基本会議ではもう本当に承認をもらうだけっていう形にしたいですね。

【会長】

基本的には微修正くらいで。

【副会長】

その場で、修正できる形で。

【会長】

大枠の方向性はもうこれで。素案の段階で確定したいと思います。

○議題（3）「その他」

【会長】

その他、事務局からお願いします。

【事務局】

では、資料3をご覧ください。

前回の基本会議でもご紹介した風土フォーラムの意見投稿フォームにまたご意見が寄せられましたので、ご紹介させていただきます。

『インフラの整備、車道・歩道・自動車・自転車用道路や水素ステーションを進めてほしいです。家の周りは樹木のため屋根の太陽光発電は難しく、蓄電できない不安は大きいです。これからの自動車の燃料も含め、水素という備蓄可能な燃料を推進してほしいです。』というご意見いただきました。

こちらも基本会議終了後ですね、風土フォーラムのホームページの方で公表させていただきます。

町として、ゼロカーボンを担当してます係に、現在の状況を確認させていただきました。町長としてももちろん水素については推進していきたいという考えはありまして、ステーションについても、明確にいつということまでは言えないですけども、水素ステーションを設置稼働できるように協議していきたいという風におっしゃっているので、こういったことも進めていきたいと町としては考えているところではございます。以上になります。よろしくお願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。

では、以上にて閉会させていただきますと思います。次回は3月4日ということで、最後になりますが、皆様のご参加、お願いいたします。それでは本日もお疲れ様でした。ありがとうございました。